

# ねぐされいちょうびょう 根腐萎凋病

病原菌名 *Fusarium oxysporum* f.sp. *radicis-lycopersici*

## 発生条件

発病適温は10～20℃で、低温期に発生する。おもに施設栽培で発生する。被害茎葉、根とともに土壤中に残った厚膜胞子(耐久性のある胞子)は、5～15年生き残ることができる。病原菌の分生子は空気中を飛散し、伝染源となることがある。



はじめ細根が腐ってちぎれ、ところどころが暗褐色に腐敗する。発病株の根や茎の維管束は褐変しており、茎の維管束の褐変は地際から10～20cm程度の高さまででとどまる。



最初に地上部先端の萎れがみられ、下位葉から黄化する。3～4月の進展が早く、5月以降緩慢となる。